

主要科目の特長

こども学科

授業科目名	特 長
音楽表現技術Ⅰ	子どもの音楽表現を豊かにするために、保育現場においてもっとも活用されている楽器であるピアノの基礎的な演奏技術を習得する。また、音楽の基礎知識とともに、子どもの遊びを豊かにする音楽表現遊びの展開について学ぶ。
音楽表現技術Ⅱ	「音楽表現技術Ⅰ」で習得した表現技術をもとに、さらに演奏技術のレベルアップを図る。特に童謡の弾き語りにも力を置き、曲想や季節感を捉えたりテンポなどを工夫したりして、表情豊かな音楽表現技術の習得を図る。
音楽表現技術Ⅲ	子どもの発達と歌唱表現について理解するとともに、保育に必要な歌唱表現に関する知識と技術を習得する。また、保育に用いる歌や歌遊びを選ぶ時の留意点、音楽表現を豊かにする環境づくりの方法などについて学ぶ。
音楽表現技術Ⅳ	楽器の構造や基本的奏法、扱い方の留意事項等について学び、打楽器や鍵盤楽器に関する基礎的知識と演奏技術を習得する。また、リズムアンサンブルについて学び、グループで協力して作品を完成させ、発表する。
造形表現技術	理論を学び、造形活動の目的を理解した上で技術を習得する。現場で使われている素材や教材を使い、ものの持っている造形的な可能性を追求する。習って学び、理解して子どもたちに伝える。このような循環性のある科目にする。造形表現で使われる。描画材料（鉛筆・パス類・絵の具等）を研究して、その特性を認識できるような授業をする。
身体表現技術	幼児体育という内容から、常に幼児・児童を指導するという立場に立ち、まず幼児について理解し、幼児体育がどのようなものであるかを学び、各種の運動遊びを経験し、幼児教育の実践に役立てられるようにする。前半の7回を講義形式、後半の8回を実技・演習形式で進めていく。
幼児教育原理	この授業では、幼児教育の基本的知識を獲得することを目標とする。そしてなぜ教育が必要なのかということ、人間の生物学的特徴から考察していく。また、「保育とは…」「保育者とは…」の問いに、教育学を中心とした広い視点から考察し、幼児教育の理解を深めていく。
保育者論	保育者の役割と倫理、制度的位置づけ等について学ぶ。保育士等の専門性とは何かを追求し、保育者の専門的成長について考察する。あわせて、保護者、地域、各種専門機関との連携・協働のあり方について具体的に理解す

	る。
心身の発達と学習過程 I	この授業では、子どもの発達について感覚・知覚・認知・感情・人格・知能などさまざまな側面から学ぶ。ヒトが人らしくなるとはどういうことか、我々はどのようにして外界の世界を知っていくのか、さまざまな例題を通して大人と子どもの違いについて学ぶ。また、発達のプロセスと保育をどのように関連させるのかについて考えていく。
心身の発達と学習過程 II	「心身の発達と学習過程 I」を基礎として、子どもの心身の発達と保育実践のかかわりについて理解を深める。生活と遊びを通して行われる子どもの学びの実際を捉えるとともに、保育における発達援助のあり方について考察する。
保育課程と指導計画	この授業では、保育を行う上で重要な保育・教育課程と指導計画の関係、実践、評価と改善の方法について学んでいく。また、具体的な例題を通してどのような点に留意しながら保育の記録や計画を立てていくのか知り、実際に作成し、実践の場で応用できる力、的確に作成する力の獲得を目指す。
保育内容総論	この授業では、これまでに学んできた専門的知識や実践で得た内容を振り返りながら、総合的に保育を捉えられるようになることを目的とする。また、保育者に必要な協調性や議論する力など、グループワークを通してスキルアップすることを目指す。
こどもと健康	子どもの生きる基盤となる心・体の健康について学ぶ。領域「健康」のねらい・内容、養護や他領域との関連性について理解する。また、生活リズムや習慣、運動遊び、安全指導等の観点から、健康で安全な生活を作り出す力を育む指導法を考える。
こどもと人間関係	乳幼児期の人間関係が、その子の人格形成に大きく影響し、幼児期に形成された「人格」は生涯を通して、思考や行動に方向性を与えているといわれている。今日の幼児を取り巻く環境は、多くの社会問題を含んでいる。講義では「生きる力を育てる」ために、親と子と保育者、三者の「人間関係」のかかわりや集団の中での個人の育ちについて、事例を参考にしながら考えていく。豊かな心の育ちを確保するための質のよい保育を「人間関係」から考察する。

こどもと環境	発達における環境の重要性について学ぶとともに、領域のねらい・内容、また領域相互の関係性について理解する。子どもの好奇心や探究心をどう育てるか、自立と自律を促す環境づくりなど、具体的な指導法を学ぶ。
こどもと言葉	乳幼児期の重要な発達課題の1つである言葉の獲得と発達の過程について捉えるとともに、領域「言葉」について学び、保育者の行うべき指導・援助の内容について理解する。授業展開にあたっては、理論や事項の説明とともに、事例を示すことで具体的理解が図れるようにする。また、教材作りや絵本の読み聞かせ演習、グループワーク等を取り入れ、興味をもって授業参加できるように図る。
こどもと表現	表現には、無意識に出てくるものと、意識的に出すものとの2種類がある。子どもの表現は、無意識の部分が多い。保育者は、その無意識の表現を理解して、適切な指導やアドバイスをしていく技術を身に付ける。子どもは、自分の表現も他人の表現も理解する力が乏しい。保育者は、表現に対する理解力を高めるために学び、体験を積み重ねていく。
保育・教職実践演習	これまでに習得した知識や技術が幼児教育・保育の専門職として十分なものであるか、また、保育観・子ども観がしっかりと構築されているかを振り返り、保育職を目指す者として、どのような自己課題があるのかを見出していく。そして、それを踏まえて、不十分な分野については知識・技術を補い、また強化・定着を図るために、附属幼での保育観察・記録、保育実践案の作成、総合表現として劇あそび作り、さらに、ロールプレイや事例研など、多様な課題に挑戦し、保育職としての資質向上を図っていく。さらに、現職者との交流を通して、保育者の役割や職務内容、今日の保育をめぐる状況と課題について捉える。
教育実習研究	実習の意義と目的、実習の方法と具体的な内容、実習に際しての留意事項等、実習について総合的に学ぶとともに、実習における観察法や記録の取り方等を習得する。事後指導では、実習を総括し、自己評価やグループディスカッション等を通じて自己課題を探究する。
保育原理	保育改革が進行しつつある現状を踏まえながら、保育の意義について考え、保育の内容・方法等を含む保育の基本や保育活動を支える諸原理について学んでいく。また、保育の思想と歴史の概要を知り、保育の現在とこれからの姿を探求する。授業展開にあたっては、保育実践例を

	多く盛り込み、保育の理論と実践が結びつくよう配慮するとともに、子ども理解に関する演習や教具の実物提示・教材紹介等を取り入れ、講義一辺倒に陥らないように図る。
児童家庭福祉	児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、制度や法体系、さらに保育との関連性など、児童家庭福祉について総合的に学んでいく。多数の事例をもとに、児童家庭福祉の現状と課題について捉え、今後のあり方を展望する。
相談援助	相談援助とは何か、その概要を理解し、相談援助を行う上で必要とされる知識や技術を学ぶ。相談援助の実際について、事例もとに具体的に理解する。あわせて、相談援助者として、保育者自身に求められる価値観・姿勢について学ぶ。
社会的養護	現代における社会的養護と歴史的変遷、児童家庭福祉との関係性など、社会的養護について全般的に理解する。社会的養護の実際として、社会的養護の仕組みや制度等について知り、その基本原理、支援内容等について具体的に学ぶ。
こどもの保健 I A	子どもの発育・発達と保健について学び、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。また、子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴を知り、その予防対処法などについて学ぶ。
こどもの保健 I B	保育者として必要な子どもの健康障害や事故、および発達障害についてどんな視点や課題があるかを中心に解説します。また、子どもの健康を守るための母子保健活動について基礎知識を習得します。保育所保育指針を視野に入れ、問題演習も含め実践的内容を取り入れます。
こどもの保健 II	保健計画作成の実際と保健活動の記録、評価について学ぶとともに、健康増進を図り心身の発育・発達を促す保健活動や保育の環境のあり方について考える。また、子どもの疾病と適切な対応、事故防止や健康管理について理解する。
こどもの食と栄養	子どもの心身の成長と健康維持・増進のための食生活を学び、発達段階に応じた食生活の役割と栄養の意義について講義と実習から理解を深める。また、食べることの楽しさ・食を営む力の基礎を培うための食育の基本とその内容をもとに食育教材の作成や児童福祉施設の食事、絵本に表記される食などの調理を行うとともに、乳幼児期の食生活を取り巻く社会的背景やその栄養的特徴についても考察し、保育活動での実践に展開できる具体的な方法を試みる。

家族支援論	家庭を取り巻く社会的状況について学び、家庭支援の意義と必要性について理解する。家庭支援に関する施策や支援体制、関係機関との連携などについて知り、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援のあり方や展開方法を考える。
乳児保育Ⅰ	乳児保育の変遷や役割等について概観し、一生で発育が最も著しい0・1・2歳（3歳未満児）の心身の発達の特徴をDVDなどの視聴覚教材などをおして学ぶ。また、発達に応じた乳児への援助方法を習得するための実習や乳児保育を取り巻く社会的環境について考える演習などを取り入れた授業を行う。
乳児保育Ⅱ	乳児（3歳未満児）の保育における養護的意義は大きく、保育所保育指針第4章「保育の計画及び評価」と第5章「健康と安全」における乳児への留意内容は特に重要であることから、乳児の健康と安全の確保に関する基本的な内容を理解し、乳児の発達を考慮した遊びを中心とする保育の計画を作成し、環境構成や遊具の製作等の展開方法について考察を行う。また、乳児保育における保育士の専門性や乳児保育の課題についてグループワークを行う。
障がい児保育Ⅰ	一般の保育と障害児保育との連続性に気づかせ、1人ひとりの発達上の課題に対しての特別な保育ニーズと支援を明らかにする観点からの障害理解を促す。教科書・配布資料を中心に講義を行う。障害児の基礎知識として病理学的考察を行い、障害児の理解を深め、保育の方法を知る。統合保育の場において生じる保育上の問題について、発表を通して互いの考えを共有し、保育観、児童観を深める。
障がい児保育Ⅱ	この授業では、定型発達についての理解をさらに深め、発達障害の原因やメカニズムについて学ぶ。また、研究論文等を読み込む力を身に付け、科学的視点で発達や障害を捉える力・知ろうとする探究心を養う。さらに、それぞれの障害に対する保育の留意点、保護者の心理・ニーズについて学び、グループワークを通して保育者に必要な知識、結論に向けて議論する力の獲得を目指す。
社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解する。また、社会的養護の実施体系、支援計画の作成と支援内容、ソーシャルワークの方法と技術について学び、社会的養護の今日的課題について展望する。
保育相談支援	保育相談支援の意義や基本について学び、保育相談支援の具体的内容と方法・技術について理解する。保育所、児童養護施設など施設種別の保育相談支援の実際について、事例研究をもとに理解する。

保育実習研究

保育実習Ⅰは、保育士資格を取得するうえで必修科目である。児童福祉施設（保育所とその他の施設）において所定期間の実習をすることが求められている。実習は①児童福祉施設の内容や機能について実体験を通して理解する ②諸教科で学んだ知識や技能が、実践の現場でいかに具現化され総合されるかを実体験することで、新たな学習課題を見出す ③保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する ④保育士としての職務倫理や子どもの最善の利益を考えた保育のあり方について学ぶことを目的として実施する。